九州国立博物館　文化財保存交流セミナー

韓国の海事文化遺産について

1975 年、韓国全羅南道新安沖で中国・元時代の沈没船がほぼそのままの形で海底に沈んでいるのが発見されました。この著名な新安沈没船は、寺社造営料唐船として中国から博多へ向かう途中に座礁・沈没した船であると考えられています。この船の積み荷は、日本で需要の高かった陶磁器類、銅銭、香木などが積まれており、当時日本でもメディアなどにも大きく報道され、今でも研究者から注目を集めています。この発見を契機に始まった韓国の水中考古学は、現在では国立海洋文化財研究所が中心となり専門の考古学ダイバーが発掘調査と保存処理を行っています。近年、泰安沖の沈没船や馬島沈没船など高麗時代の船を中心にすでに 20 件近く発掘調査が行われ、アジアではトップレベルの研究体制を作り上げました。全羅南道木浦市の海洋文化財研究所の博物館では、新安沈没船のほか、すでにいくつかの船をみることができます。この度、国立海洋文化財研究所の水中発掘課長を招待し、韓国の水中遺跡の紹介、水中考古学の取り組み、保存処理などについての紹介を通して日本と韓国の海事・水中文化遺産研究の将来を一緒に考えていきます。

海底遺跡出土状況

水中から発掘された陶磁器類

海事文化遺産専用の調査船

日　時：平成２７年５月２８日（木）１１：００～１２：００

場　所：九州国立博物館　１階研修室

講　師：文 煥哲（ムン ファンソク）（韓国国立海洋文化財研究所 水中発掘課長）　**※通訳あり**

聴講費：無料

申込み：不要

定　員：先着５０名

お問い合わせ
九州国立博物館 博物館科学課
担当：佐々木　Tel. 092-918-2819